

令和5年3月3日

保護者の皆様 地域の皆様

仙台市立南吉成小学校

校長 千葉元春

令和4年度 協働型学校評価 報告

早春の候、保護者の皆様、地域の皆様におかれましては、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

さて、本年度、取り組んできた「協働型学校評価」について、結果がまとまりましたので、御報告いたします。

皆様には、取組はもちろん12月に行った評価アンケートへの御協力をいただき、ありがとうございます。本報告に目を通すことで、南吉成小学校の子供たちの姿を知っていただきたく存じます。その上で、更なる子供たちの成長のために、学校・家庭・地域が、それぞれの立場でできることに一緒に取り組んでまいりたいと思います。未来を担う子供たちのために、これからも御支援御協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

協働型学校評価重点目標

人との関わりを大切にし、相手のことを考えて行動できる児童の育成

- ◎挨拶を丁寧に行い、あたたかな言葉を使っている。
 - 相手の話を最後まで聞き、自分の気持ちや考えを伝えようとしている。
 - 友達のよいところを見付け、困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている。
- ※全ての項目で、80%以上を目指す

上記の到達状況を、児童、保護者、職員、地域の方へのアンケートにより把握し、今後の目標や取組に反映していけるように、結果をまとめました。



1 結果

(1) アンケート項目の回答

①挨拶、気持ちを伝える、あたたかな言葉、について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
1	「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」などの挨拶を丁寧に行っている	児童	53	41	5	1		○
		保護者	28	65	6	0		○
		地域	54	46	0	0		○
		職員	5	86	9	0		○
2	「ありがとう」「ごめんなさい」の気持ちを伝えている	児童	64	31	5	0		○
		保護者	34	57	10	0		○
		地域	33	50	17	0		○
		職員	9	73	18	0		○
3	友達を「さん」「くん」をつけて呼んだり「温かな言葉」をつかったりしている	児童	48	40	10	2		○
		保護者	38	49	12	0		○
		地域	29	47	24	0		×
		職員	14	68	18	0		○

殆どが80%に到達しており、良好な結果となっています。このグラフからは分かりませんが、低・中・高学年別に集計すると、項目3において、高学年になるほど「とても」と解答する児童の割合が低くなる傾向が見られました(「まあまあ」を含めると、いずれも80%に到達)。項目3において、地域の方の評価が76%となっており、学校や家庭以外の場では、言葉が乱れるののかもしれません。

②話を最後まで聞くことについて

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
4	相手の話を最後まで聞いている	児童	62	33	4	1		○
		保護者	25	54	21	0		×
		地域	39	44	17	0		○
		職員	5	59	36	0		×

保護者からの評価が79%、職員からの評価が64%と、80%に到達しませんでした。児童の評価が95%となっていることから、児童自身は「聞いているつもり」しかし、保護者や教員からすると更に伸ばしたいかということになります。

③友達への声掛け、友達のよさについて

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
5	困っている友達に声を掛けたり手伝ったりしている	児童	57	36	6	1		○
		保護者	39	51	10	0		○
		地域	59	29	6	6		○
		職員	68	32	0	0		○
6	友達のよいところを見つけている	児童	55	32	10	3		○
		保護者	42	49	9	0		○
		地域	33	47	20	0		○
		職員	36	59	5	0		○

いずれも80%に到達しており、良好な結果となっています。

☆以下は、重点目標に間接的に関わる項目です。

④役割について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
7	家庭で役割を果たしている(児童・保護者) 地域で役割を果たしている(地域) 学校で役割を果たしている(職員)	児童	47	36	14	3		○
		保護者	36	48	14	1		○
		地域	47	41	6	6		○
		職員	36	59	5	0		○

全体として良好な結果です。ただし、児童自身の評価は、高学年になるほど「とても」と解答する児童の割合が低くなる傾向が見られました(「まあまあ」を含めると、83%に到達)。

⑤学習について

項目	No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
				とても	まあまあ	あまり	まったく		
学習	8	家庭で進んで勉強している(児童・保護者) 学校で進んで勉強している(職員)	児童	44	39	14	4		○
			保護者	32	47	17	3		×
			職員	32	64	5	0		○

児童の評価が83%, 保護者の評価が79%と、やや差が見られました。保護者の方からすると、もう少し自分から取り組んでほしいということでしょうか。

⑥家庭生活について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
9	早寝早起きをしている	児童	42	38	13	8		○
		保護者	33	48	15	3		○
10	朝ご飯を食べている	児童	88	8	3	2		○
		保護者	84	14	2	0		○

全体として良好な結果です。

⑦保護者自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
11	心にゆとりを持って、子供の思いを受け止めている	保護者	11	75	13	0		○
12	子供と向き合う時間を確保し、会話を増やしている	保護者	27	63	10	0		○

日々お忙しい中、意識して取り組んでいただき、感謝いたします。

⑧地域の方自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
13	地域で会った子供たちと挨拶を交わしている	地域	74	22	4	0		○
14	子供たちに地域行事への参加を呼び掛けている	地域	52	24	24	0		△

地域行事を開催することが難しい状況の中での76%到達に、感謝いたします。

⑨職員自身について

No.	質問	評価者	評価 (%)					とても+まあ まあ8割以上
			とても	まあまあ	あまり	まったく		
15	道徳や学級の時間を通して「相手のことを感んがえて行動する」ことについて考えを深めさせている	職員	43	57	0	0		○
16	日常的に自分たちの姿を振り返ることを通して、目標を意識させるとともに取組への意欲を持たせている	職員	29	67	5	0		○
17	学び合う授業づくりを通して、人との関わり方について学ばせるとともに人と関わることのよさを実感させている	職員	24	76	0	0		○

コロナ禍の中、工夫して取り組みました。

(2) 学校・家庭・地域で行うことが望まれる取組についての主な自由記述

①保護者記述

- ・あいさつ運動。
- ・ノーメディアチャレンジデーは、家族で意識してデジタル機器から離れ、読書をしたり、コミュニケーションを図ったりすることができたので、ぜひ続けてほしい。
- ・コロナ禍になり、交流機会がなくなってしまった。地域高齢者や学年縦割りとの関わりを増やしていただきたいと思います。
- ・季節の行事を増やしてほしい（縦割り活動）。
- ・自分や家族を大切にす授業や声掛け。

②地域の方の記述

- ・挨拶については子供たちからの挨拶を待っているだけではなく、こちらからも積極的に声掛けをし、お互いに挨拶できる雰囲気を作ることも必要かと思ます。
- ・登下校時間帯に家の前等で声掛け、見守りしてくれるような呼び掛けを積極的に推進。大人が目・姿が効果的である。
- ・地域も学校も従来通りに行事が行われれば、もっと交流が深められるし、様子が分かると思います。
- ・年々少しずつですが良くなってきていると思います。ゆっくり進んでよいと思います。大切なのは、「大人がしっかり」

③職員記述

- ・防災訓練や引き渡し訓練など。
- ・始まったばかりのノーメディアデーをもっと意識付けていくのが良いのではないかと。

2 今後の取組

(1) 学校評価反省会(職員)、南吉成学校運営協議会から

① 挨拶について

明るく元気に挨拶ができる子供たちである。しかし、中には消極的な子もいるので、教職員が根気強く手本を示していく。また、上学年の姿を朝会等の機会に紹介し、目標にできるよう配慮する。児童会のあいさつ運動が定着してきているので、引き続き目当てを持って取り組み、達成感が味わえるよう支援していく。

② 関わりについて

困っている年下の子や友達に手を差し伸べてあげる優しい子供たちである。男女の仲も良い。また、「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に言える子供たちである。係や当番活動などでも、自分の役割を果たし、認め合い、協力して学校生活を送っている。言葉遣いが気になるときがあるが、YouTube やゲームなどで聞かれる言葉の影響だろうか。児童会活動や道徳の学習等で、ふわふわ言葉とちくちく言葉などの具体的な言葉や行動を考えた。引き続き、相手を思いやり豊かに関われるよう配慮していく。

③ 学習や行事等について

子供たちは、学習に落ち着いて取り組んでいる。また、目当てを持ってこつこつと努力を積み重ねることができている子供が多い。周囲の助言を素直に受け止め、生かすこともできている。委員会活動では、異学年集団の中でも自分の考えをしっかりと話す姿が見受けられた。引き続き、周囲に受け止めてもらえる安心感を抱かせ、自分の言葉で思いや考えを話すことができるよう配慮していく。また、併せて聞く力も育み、授業においてシンキングツール等の活用や意見の交流を図り、対話的で深い学びができるように促していく。

休み時間には、校庭で縄跳びや鉄棒などをして遊ぶ子供と、室内で遊ぶ子供の二極化が見られる。外遊びのメリットを伝えたり、児童会の長縄大会などの機会を活用したりし、外遊びを勧めていく。

コロナ禍で、学習発表会など異学年と活動を見合ったり交流したりする機会が少なかった。関わりが深まったり、意識が高まったりと得るものが多いので、感染状況等にもよるが、活動内容等を工夫して交流を通し学び合う機会を設けていきたい。

ノーメディアデーは、来年度も継続し、昇降口に掲示物を置いて、子供たちに啓蒙を図っていく。